

学校名 豊島区立駒込中学校

校長名 岡泉 美和子

学校の教育目標

- ◎ よく考え自主的に学習する生徒に育てる。
- ◎ 思いやりがありよく協力し責任を果たす生徒に育てる。
- ◎ 心身共にたくましく生きる生徒に育てる。

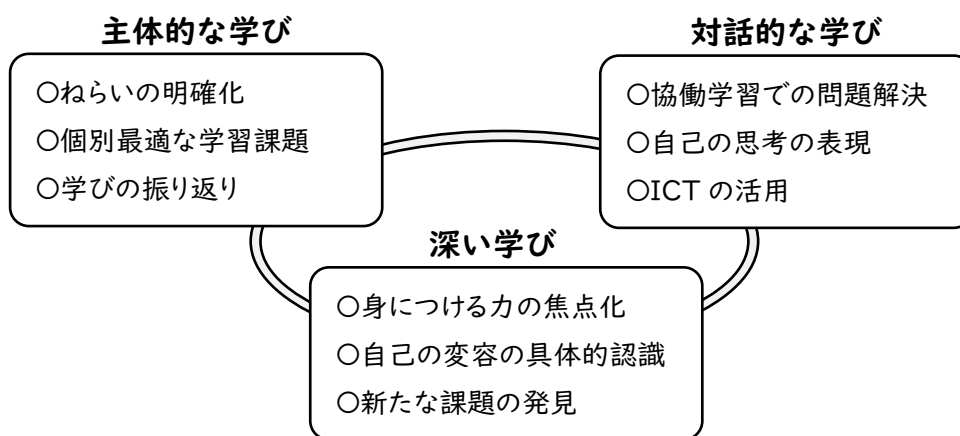
学力に関する目指す生徒像

- ・ 学ぶことに興味・関心をもち、主体的に学ぼうとする生徒
- ・ 他者の考えと比較し、話し合うことで、違いや共通点を見出し、自らの取り組みをより良いものにしようとする生徒
- ・ 授業を通して学んだことを、論理的に整理、定着させ、さらなる探求活動を行おうとする生徒

授業改善推進プランの全体像

論理的思考力をもち、主体的に学ぼうとする生徒の育成

<授業のポイント>



【単元計画のチェックシート】

- ☐ 単元のゴールを明確に見据えて、毎時間のねらいを設定した
- ☐ 単元のどの場面で学び合いの場面を設定するか考え、計画的に配置した
- ☐ 「主体的に学習に取り組む態度」を育成、評価できるように授業を工夫した
- ☐ 振り返りシートを工夫した
 - ①わかったこと ②思ったこと ③新たな疑問

【毎授業のチェックシート】

- ☐ 本時のねらいを提示した
- ☐ 自ら問いを見い出せるように教材や発問を工夫した
- ☐ 学び合いが充実するような対話的な学習を取り入れた
- ☐ 自分の思考を表現する場面を設定した
- ☐ 自ら学習を、ねらいと照らし合わせて振り返る場面を設定した

令和5年度 授業改善推進プラン（各教科）

1 国語科

目指す生徒像を基にした国語科で育成したい資質・能力		
国語で正確に理解し適切に表現する姿を目指す。学習指導要領（思考判断表現）にある文章の展開に即して情報を整理し、内容を正しく捉える力を身につけ、自分の考えや根拠が明確になるように、構成を考える力の醸成させる。学習内容の振り返りによって、自らの課題に気づき、次の学習へと繋げていき資質・能力の向上を図る。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・「自分の意見を論理的に組み立てていること」、「漢字を書くこと」の正答率が低い ・ため、情報整理の力の醸成の妨げになっている。 ・与えられた課題に対して真面目に取り組む生徒が多い。自分の意見に自信がもてず、人前で発言することが苦手である。	・授業の最後に必ず学習内容を振り返る時間を設ける。 ・相手に自分の意見をわかりやすく伝えるために、多くの語句を学び、幅広い語彙力を身に付ける。 ・漢字練習を定期的に入れることで、学習内容の定着を図る。
2年	・「漢字を書くこと」に対して苦手意識はないが、知識を活用することに苦手意識をもつ。 ・「情報と情報との関係について理解し、読み手の立場に立って文章を整えること」の正答率が低い。 ・自分の課題の把握が苦手である。	・授業の最後に必ず学習内容を振り返る時間を設ける。 ・文章中のキーワードなどを捉え、段落のもつ役割を考えさせるために、図を用いた指導を行う。 ・情報と情報との関係について理解し、文章を整える力を身に付けるために、説明文で主張と具体例の関係を図や表を活用し、構造を可視化する場面をもうける。
3年	・自分の意見や根拠が明確になるように考えたり、発言できるようになり、他人の意見から新たに考えを深められるようになってきた。 ・発言内容や「書く」作業において「情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を理解する力」を向上させることが今後の課題である。	・授業の最後に必ず学習内容を振り返る時間を設ける。 ・論理的に考える力や感じたり想像したりする力、自分の考えを広げ深めていく力を養うために、自分の考えを他人に伝え合う内容を多く取り入れていく。 ・内容を理解する力を身につけさせるため、課題に対して思考し、話し合った内容を文章に書き起こす場面を設ける。

2 社会科

目指す生徒像を基にした社会科で育成したい資質・能力
・我が国の国土や歴史、現代の政治・経済・国際関係等の社会的事象についての理解を深め、諸資料から様々な情報を選択する基礎的な技能を身に付けるようにする。 ・社会的事象の意味や意義・特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、探求する力を養う。 ・社会的事象について主体的に考え、粘り強く探求する力を養う。

学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・標準学力調査によると、正答率が区平均や全国平均よりも高くなっている。一方で、考察し表現する問題では無解答が目立っていた。 ・生徒によって知識の定着の差が大きい。	・单元ごとに、毎時間の学習の振り返りに対してコメントでの評価を行い知識の定着を確認する。また、考察し表現することの課題に多く取り組み、理解・定着の向上を図る。 ・小学校の既習事項の定着に差が見られるため、ドリルパークや自作の小テストを活用し、習熟度に応じた取り組みの機会を設ける。
2年	・標準学力調査によると、正答率は区平均とほぼ同等で、全国平均より低くなっている。地理的分野は区平均よりも高いものの、歴史的分野は低く、特に縄文～中世の学習の定着に課題が見られる。 ・社会科の学習については分野による苦手意識をもっている生徒が多く見られるものの授業への関心は高い。	・歴史的分野の学習を進めるにあたり、单元導入時に年表の確認を行い時代の流れを意識づける。また、過去のできごとがいま学んでいる時代とどのような繋がりがあるのか、影響があるのかを振り返る機会を設けることで、既習事項の定着を図る。 ・生徒によって苦手意識を感じる分野に違いがあるため、学び合いの場面を設定し、達成感や充足感を得られる機会をつくっていく。
3年	・正答率が全国、区平均より低く、特に基礎、技能の正答率が低い。領域では歴史分野が苦手な課題が残る。 ・歴史に興味関心はあるが、資料を分析し、事象の変化やその原因を考察することが苦手である。歴史的事象の意義、特色を理解するのに時間を要する。	・歴史では時代ごとに年表をまとめる振り返り学習に取り組み、基礎知識をしっかりと身に付ける。 ・公民では基礎知識を身に付けるため、資料分析の場面を多く設定し、それらを関連付けて社会的事象の変化や原因を探究する課題に取り組むとともに、話し合い活動の機会をもち、表現力や発言力を高める工夫も行う。

3 数学科

目指す生徒像を基にした数学科で育成したい資質・能力		
・課題に粘り強く取り組む姿勢を身に付ける。 ・物事を論理的に1つ1つ組み立てて考える力を育成するとともに、学び合いや発表を通して人に伝える力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・小数、分数の計算の正答率が全体的に高いが、分数の除法の正答率が低い。 ・割合の問題の正答率が低い。 ・データ、図、グラフを読み取って比較したり、説明したりすることが苦手な生徒が多い。	・特に分数の乗除の計算練習を繰り返し行う時間を設ける。 ・割合に関する身近な事象から、解決の必要性を感じる場面をもとに問題を設定し、言語活動の機会を設ける。 ・様々な例題を通して、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択して表現する力をつけるため、数値の変化に着目させて問題を解決する場を設ける。

2年	・校内の平均正答率は、どの観点や領域も区や全国を上回る結果となっている。 ・4つの領域の正答率を比較してみると、関数の分野が最も低くなっている。	・日常の具体的な事象を題材として扱うことで、式の意味や、グラフや表の有用性を理解できるように指導していく。 ・習熟度に応じて基礎的な内容を振り返ったり、発展的な内容を様々な考え方を共有しながら取り組む機会を設ける。
3年	・連立方程式の解法と2直線の交点の座標以外は全国より高い数値である。 ・1次関数の関係を表す式を求めたり、変化の割合の意味を答える問題は他の分野に比べて正答率が低い。 ・箱ひげ図の読み取りについても正答率が低くなっている。	・具体的な事象の中で、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択して表現する力を育成する。様々な例題を通して、数値の変化に注目させて問題を解決する場を設ける。 ・日常場面で箱ひげ図を活用できるような教材を工夫し、有用性を理解できるようにする。 ・関数、図形領域ともに表現したものを他者に説明するような場面を意図的に作り、文章や言葉で説明できるようにする。

4 理科

目指す生徒像を基にした理科で育成したい資質・能力		
(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 生徒が自ら設定した課題を解決するために、仮説の設定から検証、結論への帰着まで探究的に観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 主体的・協働的な取組を通じて、自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・標準学力調査については、豊島区の平均正答率よりは高いが、全国正答率と比較すると同等くらいである。特に、地球領域の平均正答率が大幅に低い傾向にある。 ・理科には、興味関心をもって授業に臨んでいる。しかし、実験・観察結果から導かれるべき考察が見つけれない傾向が大きい。	・小学校の内容については概ね理解しているようだが、「大地のつくりと変化」は区平均正答率が全国平均正答率よりも低い。そこで導入時に小学校の学習内容の確認をしたり、小テストなどを行ったりして、学習理解の不足を補充した上で単元の学習を進める。 ・観察・実験では、器具の正しい取り扱い方法、また、結果から導かれる法則や考察を考える力を養っていく。
2年	・標準学力調査については、豊島区の平均正答率と同等かそれより低い傾向があり、特に火山についての平均正答率が大幅に低い傾向にある。 ・理科には、興味関心をもって授業に臨んでいる。しかし、計算が関係する	・物理・化学領域の学習については、興味関心が持てるような導入を工夫し、理解不足を常に確認しながら学習を進める。 ・計算が関係する学習内容や一般的に理解が難解な学習については、宿題や小テストなどを多く取り入れ、反復演習による知識の定着を図る。また、「や

	学習内容や応用的な問題への無回答率が高く、理解不足である。	ればできる」という成功体験と「わかって楽しい」という学習意欲を向上させる。
3年	・標準学力調査については、豊島区の平均正答率と同等かそれより高い傾向がある。しかし、「化学変化」は区や全国の正答率と比べると大幅に低い傾向にある。 ・理科に対する興味関心は強く、学習に対しても納得するまで質問する生徒が多い。	・第3学年では化学領域の単元導入時に第2学年化学変化の内容を重点的に振り返り、復習問題で理解を深めてから学習を進める。 ・3年間の理科学習に対する振り返りの時間を設け、苦手分野の内容の補足・補充を目指す。 ・復習問題や小テストなど反復演習で実践力の向上を図る。

5 音楽科

目指す生徒像を基にした音楽科で育成したい資質・能力		
・音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことを目指し、多様な音や音楽を感じ取り、創意工夫して表現したり鑑賞したりする力の育成を図る。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	授業を楽しみ、歌唱にもパワーがある。「創意工夫」をする論理的思考はベースとしてあるが、技術につながっていない生徒が多い。	1年生は「自分なりの」表現力が高めていけるよう個別に声かけをしていく。毎時間、書いたり発言させたりして、必要な語句の知識を増やしていく。
2年	表現力が豊かで、主体的・協働的な学習の取り組みが見られるが、感じ取ったものや味わったものを「音楽要素」のキーワードを活用して表現をしていく力が二極化してきている。	模範となる友達の表現や様々な意見から学ばせたり、短時間でできるものを繰り返し表現させたりしていく。また、二極化を解消するために、個々のレベルに沿った内容のスモールステップを提示し、取り組ませていく。
3年	協働的・対話的な学習の取り組みは見られるが、受動的・依存的で主体性や自己表現をする力が弱い。	自ら問いを見い出せるように発問を工夫し、できるだけ多くの生徒が発言するような時間を設けていく。個々による指導やフォローを厚くし、自信をつけさせていく。

6 美術科

目指す生徒像を基にした美術科で育成したい資質・能力		
・美術を愛好する心を育み、自然の美しさや身の回りの製品から感じ取る印象を受け止め、自分の作品に取り入れる事ができる。 ・日本文化に興味をもち、古来から継承される技法・作品の美しさを感じ取る。 ・用具の特性を理解し、制作の順序など考えながら、見通しをもった表現をする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・作る・描くことに強い関心をもち、一生懸命に取り組む態度が見られる。	・より良い作品を作るにはどうすればいいのか、他の人の作品や制作過程を見ながら考えられるように、見に行く時間を設ける。

	・技術的な面では、自分の想像に技術力が追いついていないため、アイデアと完成作品のクオリティの差が開いているところがある。	・糸鋸など刃物を使う制作に苦手意識をもつ生徒が多いため、危険が無いようにデモンストレーションをまじえながら、より良い制作が出来るように補助する。
2年	・他の生徒の作品を見ながら自分の作品に活かせる部分を探そうと努力している生徒が多い。 ・モダンテクニックで表現されるような、偶発的な形の面白さを感じ取る力がある。	・制作時間が残っていても、ある程度完成に近づけられたら終了する生徒が見受けられる。作品をより良くするような働きかけができるように、「職人のインタビューの視聴」など鑑賞の授業に取り入れていく。
3年	・作品鑑賞では隅々まで作品を観察し、特徴や感じたことを文章に具体的に表すことができる。 ・時間の見通しがもてず、制作終了時間間際になってしまうところがある。	・他生徒の作品鑑賞では、自分の作品との比較もできるようにプリント内に項目を作る。 ・時数が記載された計画表を作り、毎時間できたこと、次の目標を記入させることで、時間に見通しをもたせる。

7 保健体育科

目指す生徒像を基にした保健体育科で育成したい資質・能力		
・運動の特性に応じた動きや必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付ける。 ・運動についての課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えを他者に伝える力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・全体的に授業（運動）に対して意欲的であるが、運動能力が低い。	・毎時間、授業前にサーキットトレーニングを実施することで基礎体力の向上を図る。
2年	・全体的に授業（運動）に対して意欲的であるが、運動能力が低い。	・毎時間、授業前にサーキットトレーニングを実施することで基礎体力の向上を図るとともに獲得した基礎・基本の技能を活用する機会を多く設定する。
3年	・授業（運動）に対しての意欲・運動能力ともに二極化している。	・実技実施の際にスモールステップを設定することで成功体験をさせて、意欲の向上を図る。また、試合形式の練習を多く活用し、楽しみながら運動に親しませる。

8 技術・家庭科

目指す生徒像を基にした技術・家庭科で育成したい資質・能力		
・生活に必要な知識と技能を習得し、それらを用いて人生を豊かに過ごせる能力を獲得する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	(技術) ・基礎的な知識や技能が不足している生徒	(技術) ・実習題材に工夫を加え、それぞれの習得状況に合

	徒が多い。また、手先の訓練が不足気味な生徒が多い。 (家庭科) ・意欲はあるが思うように作業が進まない。	わせた課題を用意することで課題を解決する。 (家庭科) ・実習した作品の進捗状況によりアドバイスを加え、課題を解決するように指導する。
2年	(技術) ・技術的な内容に興味や関心をもつ生徒が多い一方で、知識が不足してる生徒が見られる。 (家庭科) ・技能習得に関して得意な生徒と不得意な生徒の差が大きい。	(技術) ・座学の内容を吟味し、実習題材との関連を明らかにして、生徒の興味や関心の高さを知識技能に反映させる。 (家庭科) ・不得意な生徒には基礎的技能を習得させて関心を高めていく。
3年	(技術) ・技術的な内容に興味や関心をもつ生徒は多いが、知識を応用発展させる力が不足している。 (家庭科) ・関心が高く意欲もある。複雑な内容になると理解力が足りない。	(技術) ・実習題材で各自が方法を選択できる場面を増やし、知識や技能を応用し発展させる機会を設ける。 (家庭科) ・授業内容の将来の生活とのつながりを提示し、展望を開かせることによって理解力を促進していく。

9 外国語科

目指す生徒像を基にした外国語科等で育成したい資質・能力		
・将来自分が置かれた環境の中でたくましく生きていくために、授業内で誰とでもやりとりができる力を養う。 ・問題や抱いた疑問に対して、自ら調べ、考えることで、粘り強く課題に取り組み、自分で解決する力を養う。 ・学び合いの中でよく協力し英語力を高め、意欲をもって英語で表現できる資質を身に付ける。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・英語の理解度に大きな差があり、特に書くことの力の差が大きい。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、英語の授業内容が“ほとんど分からない”“どちらかといえば分からない”を選んだ生徒が3名いる。同様に、英語の学習がどのくらい得意かという項目では、“どちらかといえば得意ではない”と“得意ではない”を選択した生徒が合わせて10名いる。また、「わから	・生徒の躓きを早めに解消するため、夏休み期間に補充教室を行い、基礎的な単語・文法事項を確認し、英作文の力の向上を図る。 ・英語の理解力に差があるため、レベルを選択できる取り組みを設定したり、理解度に応じたワークシートを作ったりして、どの生徒にも学びのある時間を提供する。 ・問題や抱いた疑問に対して、自分で解決する力を養うため、授業中に辞書を引く時間を設けていく。

	ないことがあっても学習を続けるようにしている」という項目では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択した生徒が全体の 32%と、都平均を下回った。	・学習意欲を高め、個々が学習方法を工夫しながら粘り強く学習に取り組む姿勢を身に付けさせるため、生徒が毎授業書く振り返りシートに、一人一人に合う学習アドバイスを送る。
2 年	・英語の理解度に差がある。「標準学力調査」の結果では長文の読解力に大きな差があった。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、英語の授業内容が“ほとんど分からない・どちらかといえば分からない”を選んだ生徒が 11 名いる。また、英語の学習がどのくらい得意かという項目では、“どちらかといえば得意ではない・得意ではない”を選択した生徒が合わせて 19 名いる。同様に、学習の動機に関するものの「しっかり考えられるようになりたいから」という項目では、“当てはまる”を選択した生徒が 54.2%と、都の平均を 17%上回る。また、「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」という項目では、“当てはまる”を選択した生徒が 30%を超え、「学校の学習で人に負けたくない」という項目で“当てはまる”を選択した生徒が 29%と他学年と比べて高い。一方で、「友達や先生と学習するのが楽しいから」という項目では、“当てはまる”を選択した生徒が全体の 25%と、都平均を下回った。 ・自己の成長を考え、積極的に学習を深める力は強いが、学力の二極化が顕著であり、協働学習の展開が難しい。	・生徒の躓きを早めに解消するため、夏休み期間に補充教室を実施し、生徒の学力に合わせた支援を行う。 ・長文読解の単元では、生徒が自分でレベルを選択できるワークシートを作り、生徒一人ひとりが学びある時間を過ごせるよう工夫する。 ・読解力と記述力が大きな課題となるため、帯活動にてショートストーリーを読ませ、自力で文章を読み解く力をつけさせる。また、そのストーリーに基づいた記述問題を作成し、理解度を測る。 ・高校受験時のスピーキングテストへ向けて、「表現力」を強化すべく、発表の場を多数設け、場数を踏ませる。また、授業内で生徒同士がやりとりをする機会は多くあるので、お互いに学びある時間を過ごせるよう課題を設定する。 ・生徒の良さである強い発信力を用いて、生徒の発言を繋ぎながら授業を進めていけるよう工夫し、生徒が自分から英語で伝えたいと思うことができる授業を目指す。
3 年	・自分から積極的に表現をする生徒は少ないが、活動に対しての学年全体の意欲は高まってきた。 ・区学力調査においては区平均を下回る。基礎問題・記述解答・書くことの強化が必要である。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調	・生徒の躓きを早めに解消するため、夏休み期間に補充教室を実施し、生徒の学力に合わせた支援を行い、基礎問題を解く力の向上を図った。 ・高校受験での読み取る力を育成するために、授業の中でも、まずは自力で読み取り、英語の質問に答えることで実践力を高める。 ・11月のスピーキングテストへ向けて、授業の始

査」では、英語の授業内容が“ほとんど分からない”“どちらかといえば分からない”を選んだ生徒が昨年度より少なくなった。 ・正しい表現が出来ないことに自信をもてない生徒と基礎の積み重ねが足りず表現することに課題がある生徒が多い。	めに自分の意見についてやりとりをし、生徒同士が積極的に表現し、学び合う時間を設ける。 ・授業の中で自分の身近な学校生活や社会的な内容について自分がどう考えるかの英作文を書く時間を設け、日常的に自分や社会を見つめ直し、英語で表現する。 ・お互いを認め合う授業の雰囲気大切に、積極的に表現し、安心して間違えることができる授業を目指す。また、間違いをお互いに確認し合う中で、改善していく授業を目指す。
--	--

10 特別の教科 道徳

目指す生徒像を基にした道徳科で育成したい資質・能力		
・より良く生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・内容項目に関わらず、教材にしっかりと向き合い、他者の考えを通して自身の考え方を深めようとする前向きな姿勢が見られる。 ・自身の考えを記述することが苦手な生徒がいる。	・ローテーション道徳を行い、学年教員全員で道徳授業を展開することによって、生徒の様々な考えを引き出せるようにする。 ・毎授業、他者の意見を聞き自身の考えを振り返る時間を設定する。 ・授業の始めと終わりで、どのように考えが変化したのかを確認できるように、ワークシートを作成する。 ・考えを記述する手が止まってしまっている生徒には、個別に声かけを行う。
2年	・1つ1つの題材、質問についてしっかりと考え、自分の意見を書ける生徒がほとんどである。 ・全体の前で意見を言うことができる生徒も増えてきている。	・全体での意見交換の際は生徒の挙手を待つだけでなく、全員の意見を発表させたり、小グループをつくり、グループ内で意見を交換することで、全員が参加し意見を交換でき、話し合える機会を設ける。
3年	・他者への思いやりの気持ちがあり、自分自身についてもより良くなりたいという意識がある。 ・ワークシートや振り返りシートへの記述も多い。他者の意見をメモするなど、自分の考えを深めようとする態度が見られる。	・生徒間での意見交換の場面を設定することで、お互いの考えや意見を認め合える環境作りを行う。 ・多様な価値観について触れ、物事を多面的に見たり、自己のより良い生き方について考えたりすることができるような発問を工夫する。 ・記述している内容について共感する姿勢を示し、主体的に発言しようとする態度を育てる。

	・グループワークでは話し合いが成立するが、全体では自分の意見を積極的に発表しようとする生徒が少ない。	
--	--	--

Ⅰ 総合的な学習の時間

目指す生徒像を基にした総合的な学習の時間で育成したい資質・能力		
・探究的な見方や考え方を働かせ、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考える資質や能力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・物事に興味関心をもち、熱心に取り組もうとする生徒が多い。 ・班でコミュニケーションを取り合い、意見交換しながら学習を進めたり、まとめたりすることが好きな学年である。 ・現在はまだ学習成果を表現することに取り組んでいないため、この点が今後の課題・取り組み目標である。	・班や全体の中で発表し、評価し合う体験も行い、自信を深め、主体的に発表したり学びを深めようとする態度を育てていく。 ・キャリア教育や移動教室を通して、調べ学習や課題に取り組んだ成果を表現することを重点的に取り組んでいく。例えば壁新聞の作成やタブレットを使ったまとめ、学習成果のプレゼンテーションなど表現の機会を多く作る。
2年	・班で話し合いを分担し、自分の役割を果たそうとする生徒が昨年度よりも多くなった。 ・調べたことをスライドや新聞にまとめる能力の向上も見られる。	・班や全体の中で発表をしていく中で、しっかりと自信をもって発表できるようにしていきたい。 ・新聞や全体での発表においては、聞く側にわかりやすく、興味をもって聞くことができるよう工夫していくことも考えさせながら取り組ませていく。
3年	・課題に対して関心をもち、タブレットを活用して内容を精査してまとめることができる。 ・発表場面では自信がなく、積極的に自己表現しようとする態度に乏しい。	・修学旅行やキャリア教育、SDGs 防災学習を通して、個人活動や班員との話し合い活動を行い、考えを深めたり、表現したりする機会を設ける。 ・安心できる教室環境を作り、主体的に発表しようとする態度を育成する。

Ⅱ 特別活動

目指す生徒像を基にした特別活動で育成したい資質・能力		
・学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員として、より良い学校生活づくりに参画し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・全体的に何事にも一生懸命に取り組もうとする行動が多く見受けられる。特に行事に対して、成功させようとする意識が高く、自主的に行動したり、積極的な	・学校生活は集団生活であることを常に意識させ、全体の中の一人としての役割やみんなで協力し合うことの大切さに気づかせる。 ・「一生懸命取り組むこと」「真面目に取り組むこ

	意見を交わしながら物事に取り組む生徒が多い。	と」によって得られる充実感や達成感を実感させる。
2年	・昨年度1年間を通し、主に行事を通して班やクラス、学年で協力していく良さについて理解を深めていくことができた。その中で、自分では理解できないことや難しいことに対して建設的な話し合いを進めにくい生徒も見受けられることが課題である。	・自分の意見をしっかりと述べたり、集団で協力してよいものを作っていく良さを主に行事を通して学習させていく。 ・リーダーとなる生徒を中心とし、話し合ったり意見を交換する場面を設け、協力して取り組む意識をもたせる。
3年	・行事では、みんなで協力して成功させたいという思いは強く、否定的な行動をとる生徒はいない。しかし、自己主張する力が弱いという側面でもある。集団生活の中で、自分の思いを正しく伝えられるようになることが課題である。	・落ち着いた集団生活の中で、組織の一員としての自覚や責任感を高めていく。個人や集団を成長させるような行為に対しては適切な評価をし、自己肯定感の育成につなげる。 ・進路学習を通して、自身の将来や社会への貢献について主体的に考える態度を育成する。

1.3 交流及び共同学習

目指す生徒像を基にした交流及び共同学習で育成したい資質・能力		
多様な人と関わる経験をすることで、お互いを理解し、尊重し合う態度を養い、社会性と豊かな人間性の構築を図る。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・特別支援学校の副籍の生徒と直接交流を行っている。学校便りや学年便りの交換、行事の案内など情報交換を行っている。	・学年の掲示板に紹介コーナーを設置し、プロフィールカードや作品を展示する。
2年	・SDGs体験学習で、高齢者体験、視覚障害者介助講座、手話講座を行う。 ・小学校と連携し、小学校の夏季学習教室に代表生徒が「ゲストティーチャー」として赴き、勉強を教えている。	・特別な配慮が必要な人について理解を深め、お互いに尊重しあい関わっていける体験を計画的に行っていく。 ・児童生徒の交流を今: 【豊島区立駒込中学校】 習も進めていく。
3年	・2年生で行った車椅子体験やブラインドウォークの経験を元に、SDGs体験学習であらゆる人に寄り添った避難所運営シュミレーションを行った。 ・小学校と連携し、「ゴミ0デー」では小学生と一緒にいくつかのグループに分かれて、地域の清掃活動を行った。	・道徳の授業や日々の生活の中で、「誰もが互いの人格と個性を認め尊重し、支え合う」ことについて考える機会をもつ。 ・児童生徒の交流を今後も促進し、授業での交流学習も進めていく。